



県文 絹本着色三尊来迎図 西念寺蔵  
—仏教絵画—



吉田荘八「銀彩樹光鳥語花器」  
—工芸にみる鳥の意匠—

## 特別陳列

# 仏教絵画

■ 百万石大名の装い —甲冑・陣羽織— 前田育徳会尊經閣文庫分館

■ 生誕100年 森本仁平展 第3展示室

■ 工芸にみる鳥の意匠 第5展示室

- 6月前半の展覧会
- 6月の企画展示室
- 美術館バスツアー募集
- キッズプログラム夏休み体験講座募集
- 行事予定
- 所蔵品紹介

6月16日(木)～7月12日(火)会期中無休

## 学芸員の眼

仏画を内容からみると、①釈迦関係、②大乘仏教関係、③密教関係、④浄土教関係、⑤神仏習合(垂迹)関係、⑥その他の六つに分類されます。この分類はそのまま仏教の歴史ともつながります。

仏教伝来期には仏像と同様に釈迦如来が中心となります。次いで薬師如来や弥勒菩薩など大乘仏教の諸尊が描かれました。平安時代初期には空海、最澄らの僧が相次いで入唐し、日本へ系統的な密教を伝え、修法に用いるための各種の曼荼羅や仏画が制作されました。

平安時代後期には、阿弥陀如来の住する西方極楽浄土への再生を願う浄土信仰が広まり、阿弥陀如来来迎図などが盛んに制作されました。仏を本地としその仏が救済する衆生に合わせた形態(垂迹)を取ってこの世に出現してくるとする垂迹説もこの時代からです。鎌倉時代、禅宗の普及にともなって、頂相と呼ばれる祖師像も数多く残されました。

仏教絵画とは広い意味では仏の像や経典の内容など、仏教に関する題材を扱った絵画をさします。通常は、礼拝の対象とされる仏教諸尊の画像をさしており、仏画とも呼ばれます。寺院の壁画のほか、絹、紙、板に描いた絵画があり、版画等も含まれます。

仏画は諸尊や経の内容、祖師の肖像などが、定められた様式に沿ってつくられます。それでいて独特の造形や、また見る者に対して訴えかける心理的な部分をいかに表現するかを意識することも重要となってきます。作者個人の自由な創造性はその中には見つけにくく、気ままな変更も許されない独特の絵画といえます。しかしこうした厳重な制約の中にも、風土や時代、作品の芸術的感覚によって、数多くの優れた仏画が生まれ、それに対して合掌し、祈りを捧げることで深い精神性が生み出されてきました。

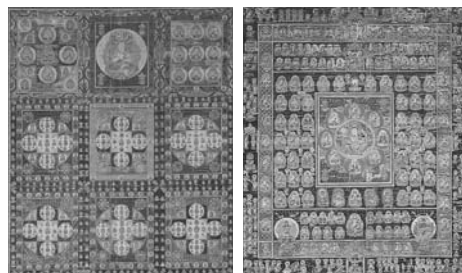
仏画の歴史は、絵画の歴史そのものといえます。そして日本における仏教の歴史に深く関わっています。仏教の伝わった飛鳥時代にその歴史は始まり、次々に伝えられる新しい仏教とともに仏画の様相も変化していきました。

飛鳥時代から平安時代前期にかけては、中国・朝鮮の大陸文化の受容と展開が見られ、平安時代後期になると、日本的な独自の表現と様式を生み出し、仏画の黄金時代を迎えます。鎌倉時代に入ると禅宗や浄土宗、日蓮宗などの新仏教がおこり、内容的にも写実的で多種多様で変化に富む様相を示します。しかし鎌倉時代末期以降には、仏教絵画は次第に絵画史の主流を外れることとなり、遺される作品も減少していきました。

本展では、石川県指定文化財を中心に当県に伝わる仏画を紹介します。



金沢市文 涅槃図 (高巖寺蔵)



石川県文 両界曼荼羅図 (金蔵寺蔵)

# 生誕100年 森本仁平展

6月16日(木)～7月12日(火)会期中無休

洋画家森本仁平氏(一九一一―二〇〇四)の生誕百年に際し、当館所蔵品による、特集展示を行います。

森本氏は明治四十四年石川県大聖寺生まれ。東京美術学校師範科を昭和七年に卒業し、美術教師として岩手県一関へ赴任。その後幾度か転任し、二十年四月朝鮮で現地召集を受け、ソ連軍によってシベリヤへ連行されますが途中脱走、虎口を逃れ妻子と共に帰国されます。戦後は一関にあって日本美術会一関支部を結成、同時に自由美術協会に出品を重ねます。この頃の作品は社会派としての制作であり、時代への批判精神が作品に漲っています。

昭和四十七年、教員生活を終えて画業に専念す

る六十歳前後から、作風は変わっていきます。外を見つめていた眼が自己の中へと向かうのです。四十九年制作の「空の肖像」と題する自画像によって写真を指向、以後は風景画に本領を見いだします。「通俗であろうと、日常的な視野の中で、実に即した実感としての詩情を大切にしたい」と、いずれの作品も丹念な描写がなされ、広大な大気が広がるのです。黄褐色、アンバー系に画面は統一されて、春霞の頃のような暖かさを感じます。

本展は森本氏が社会に目を向けて描いた四十四年の「地層」から、悠久の時を感じさせる「本橋と外燈」など平成九年の作品まで十八点により、静寂で敬虔な氏の絵画世界ををご覧ください。



早春の岸边 森本仁平

# 百万石大名の装い —甲冑・陣羽織—

5月11日(水)～7月12日(火)会期中無休

「金沢百万石まつり」に合わせて、前田育徳会が所蔵する藩主代々の甲冑や陣羽織を公開しておりますので、往時の威容を展示室で再び想い描いていただけることと思います。展示作品のなかから甲冑、陣羽織、鎧をそれぞれ一点ずつ紹介します。

## 「黒塗六十二間甲冑」三代利常所用

加賀藩の甲冑(加賀具足)の特徴として、様々な素材を用いた工芸技術によるすばらしい装飾技法が見られるところが、他藩の甲冑と大きく異なる点です。三ツ鍬形の前立を付けた黒漆塗の六十二間筋兜に、紫系威(おどし)の胴の前後に大きく桜文を配した具足です。桜は古来より日本人にもっとも好まれた花であり、その散り際の潔さが武士道に通じる点から、武器にも多用されます。

## 「猪目文陣羽織」五代綱紀所用

陣羽織とは、戦国時代以降武将が具足の上から

着用した外被です。この陣羽織は、黒の羅紗地の背に、赤の羅紗地で大きく猪の目を切嵌技法であしらっています。これだけで相手を威嚇する効果は十分ですが、陽炎を神格化した摩利支天が武人の守護神として信仰されており、摩利支天は猪に騎乗することを考えると、文武両道を示す綱紀の高い見識が認められます。

## 「真向兔文銀象嵌鎧」

鎧(あぶみ)とは乗馬の際に鞍の両側に吊るして足裏を支える道具です。この鎧は正面に真向の兔を大きく面象嵌で配し、さらに毛並みを線象嵌で表すなど、いわゆる鎧象嵌の技法を用いています。真向兔は「百工比照」に収められた引手にも見られ、謡曲「竹生島」に由来する「波兔」文様など、兔は多産であることやその所作から繁栄や飛躍の象徴として美術工芸品にしばしば登場しています。



真向兔文銀象嵌鎧



# 主な展示作品

- 前田育徳会尊經閣文庫分館  
五月十一日(水)～七月十二日(火)  
「百万石大名の装い」  
■第1展示室  
国宝 色絵雉香炉  
重文 色絵雌雉香炉  
野々村仁清  
野々村仁清
- 第2展示室【古美術】  
五月十一日(水)～六月十二日(日)  
「長谷川等伯とその周辺」  
六月十六日(木)～七月十二日(火)  
特別陳列「仏教絵画」
- 第3展示室【油彩画】  
四月二十四日(日)～六月十二日(日)  
フードの女  
舞妓十二題(京舞他5点)  
傀儡師  
高光一也  
宮本三郎  
吉田富士夫



舞妓十二題(京舞) 宮本三郎

- 第4展示室【彫刻】  
四月二十四日(日)～六月十二日(日)  
特集展示「顔々様々な表情」  
六月十六日(木)～七月十二日(火)  
歌郷  
ワ・タ・シ今ナニヲ  
尾形喜代司  
梶本良衛  
山本力吉
- 第5展示室【現代工芸】  
五月十九日(木)～六月十二日(日)  
(陶磁) 花絵扁壺  
(漆工) 平文光輪壺  
河井寛次郎  
大場松魚  
(染織) 春秋野外遊楽図訪問着  
初代由水十久
- 第6展示室【日本画】  
四月二十四日(日)～六月十二日(日)  
輪廻  
三人の刻  
夏日  
丘の家族  
石川 義  
中村 徹  
稲元 実  
羽根万象



夏日 稲元 実



花絵扁壺 河井寛次郎



ワ・タ・シ今ナニヲ  
梶本良衛

# 特集展示 工芸にみる鳥の意匠

6月16日(木)～7月12日(火)会期中無休

工芸作品といえば、陶芸、漆芸、染織、金工など、さまざまな素材が用いられ、その形態も多様です。基本的に日常生活のなかで使用する「用」としての機能を意識しながら、「鑑賞」という側面に工夫を凝らし制作されています。そのために、ものの表面に意匠が施されますが、表現は多彩で、点や線、面などによって形づくられた抽象的な幾何学図形から、自然の形象の写生を基に描かれた絵画的なものまで、実に幅広く見受けられます。今回の工芸部門の特集展示では、とくに鳥の意匠に焦点をあて、それぞれの作家の個性的な鳥の表現を楽しんでいただきたいと思います。その中に

は、雀、鳩、鶯、鶺鴒、雁、翡翠、尾長鳥、孔雀、鶴、鶉、雷鳥など、具体的な鳥の姿を見せるものから、シンプルな形に整理され一般的な鳥のイメージに文様化されたもの、さらに鳳凰という架空の伝説的な鳥をあしらったものなど、多くのバリエーションが見出せます。またその姿は、飛翔する、舞い降りる、さえずる、ついでに、たえずむなど、鳥の生の鼓動が伝わってくるような印象を与えています。鳥たちが活発に活動する初夏、美術作品の中に変化に富んだ鳥の形や色を鑑賞してみたいかがでしようか。



肉合研出宇豆良水指 佐治賢使  
昭和21年 第1回日展特選

## 第2展示室

# 長谷川等伯と その周辺

5月11日(水)～6月12日(日)会期中無休

今回の展示は、長谷川等伯が信春と号して生地七尾で制作した「日蓮聖人像」(実相寺蔵)と「十六羅漢図」(霊泉寺蔵・石川県指定文化財)に等伯の四男、長谷川左近の「十六羅漢図」(大乘寺蔵・石川県指定文化財)と長谷川派による「柳橋水車図」(大乘寺蔵)を加えて、長谷川等伯の初期の画業から没後の画風継承の様相を、飛び石的に紹介するものです。さらに等伯の強力なライバルで、桃山画壇を牽引した狩野永徳の「松樹禽鳥図」(個人蔵・石川県指定文化財)もあわせて展示し、桃山の時代相を概観します。



石川県指定文化財  
「松樹禽鳥図」(部分) 狩野永徳(個人蔵)

### 六月前半の展覧会

## 1F企画展示室

# セルフ・ポートレート展 —キャンバスの中の巨匠たち—

4月24日(日)～6月12日(日)会期中無休

セルフ・ポートレート展では、自画像と作品、パレットと作品、これら三種全てといった組み合わせに、肖像写真を添えています。

第7展示室から本展は始まりますが、最初に目にするのは安井曾太郎と梅原龍三郎のコーナーです。安井と梅原は共に明治二十一年京都生まれで師も同じく浅井忠、パリ留学の時期もほぼ同時というライバルです。安井の自画像はパリでアカデミー・ジュリアン(私立の美術学校)で学んだ後、自由制作に励んでいた頃の作品。アカデミーでの安井の裸婦デッサンは、日本の画学生の憧れ、あるいは規範とでもいべききもので、その頃安井はこういう顔をしていただのかと感慨深いものがあります。

また梅原のコーナーは、有吉佐和子氏を描く梅原のスナップ写真を大きく引き伸ばしてバックとし、その前に画材やパレットを並べています。梅原の代名詞というべき薔薇を描いたパレットは、安井のパレットと指を入れる穴の位置が違います。バックの写真を見ると、なるほど、梅原は左利きなのです。ところが、時計回りに白から黄、赤、緑…と絵具の配列はまったく同じで、大きく違っているのは白が占める面積です。安井は大きく梅原は小さい。つまり安井は白をどの色にも混ぜて淡くくすませ、梅原は混ぜずに色の発色を生かすのです。いろいろと「発見」の多い展覧会です。ぜひご覧ください。

本展は「首」作品の多彩な表情と表現をご覧ください。ただきます。「顔」を中心とする首作品の楽しみ方には、多彩な表情を眺めることは元より、像主の人となりや性格に思いを巡らせ、また著名人の肖像であればその人物の人格や業績を思い出し自らのイメージと重ねてみる。また作品を作った作家の眼を辿ることのほか、鑑賞者が作品の内に思いつける人の面影を見つかることかもしれません。「顔」の作品を通して多彩な人間表現の世界をお楽しみ下さい。



中村研一像 吉田三郎

## 第4展示室

# 顔 ～様々な表情～

4月24日(日)～6月12日(日) 会期中無休



セルフ・ポートレート展 会場風景

第8・9展示室

# 第33回 伝統加賀友禅工芸展

6月22日(水)～27日(月)会期中無休  
午後6時閉室

加賀友禅技術保存会は現在、十名の友禅作家が会員に認定されており、加賀友禅の正統な技術保存と後継者育成のため、石川県の無形文化財に指定を受けています。その主旨を推進するため、毎年開催しているのがこの展覧会です。

昨年の三十二回展より公募制を採用したことで、広く一般の方にも出品できるようにしました。加賀友禅における新しい感性と創造的作品の数々をご覧ください。

◆入場料／四〇〇円(三〇〇円) 高校生以下無料  
※( )内は二十名以上の団体料金

◇主催／協同組合 加賀染振興協会  
◇連絡先／金沢市小将町八一八

加賀友禅伝統産業会館内  
伝統加賀友禅工芸展事務局  
TEL 〇七六一二二四一五五一一

第7～9展示室

# 第22回 石川県水墨画協会公募展

6月16日(木)～19日(日)会期中無休  
午後5時閉室

石川県水墨画協会は、平成元年度発足、同二年に第一回公募展を開催し今日に至っております。公募展は石川県内の水墨画会諸会派及び一般個人を統合する当協会が行う展示会です。これは、過去の公募展の実績に照らし承認された会員の研鑽の場であると同時に、広く県内より一般公募し、厳正な審査の上一入選作を展示し、水墨画の普及発展に寄与することとしております。従って各会派主宰の作品を始め、会員並びに一般公募の意欲的な表現による、楽しいな協会展ならではの作品をご覧いただければと思います。

多くの方々のご来場をお待ちしております。

◇入場料無料  
◇連絡先／能美市高坂町八九九の一一五  
事務局長 佐藤 剛  
TEL 〇七六一一五五一一五二九九

「日本画を志すものが、これまでの既存的概念や会派にとらわれることなく、自由で新しい発想によりそれぞれの日本画制作をすることを目的とし、会員相互の協力によってその研究・模索と石川県内での発表の機会を設け、自己の研鑽に努め、石川県の美術文化の発展に寄与する。」とし、新たな日本画の会として昨年スタートしました。

若手からベテランまで年齢層は幅広く、モチーフトも風景や静物、動物や植物、具象や抽象など多岐にわたっています。

ぜひ、この機会に石川県内の日本画家の意欲作をご覧ください。

◇入場無料  
◇連絡先／輪島市鶴入町二一三十七  
石川県日本画会事務局長 宮下和司  
TEL 〇七六八一二二一七一四二二

光風会は、明治四十五年の創立で、数多い美術界にあつて最も古く、豊かな歴史と伝統を持つ美術団体です。そのモットーは具象を基本にしながらも常に新しいレアリズムの追求に情熱を燃やし続けることです。

今回の金沢展は、今春国立新美術館で開催された中から、基本作品七十四点と本県在住作家の作品四十四点(内基本作品三点)、計百十八点を展示いたします。

◆主な出品者  
庄司栄吉、清原啓一、寺坂公雄、藤森兼明(以上芸術院会員)、丹下健三、桂川幸助・古庵千恵子(以上理事工芸)、円地信一

◇入場料  
・一般 七〇〇円(五〇〇円)  
大学生 三〇〇円(二〇〇円)、高校生以下無料  
( )内は前売り料金 ※当館友の会会員は、会員証提示で前売り料金になります。

第7～9展示室

# 第97回 光風会展金沢展

6月30日(木)～7月4日(月)会期中無休  
午後6時閉室

第7展示室

# 第2回 石川県日本画会展

6月22日(水)～26日(日)会期中無休  
午後6時閉室



# 6月の 行事予定

# 参加者募集！第9回美術館バスツアー 能登の寺社を訪ねて

今回は、その土地で文化財を観ることを目的とした能登への旅です。未曾有の災害によって、尊い人命だけでなく貴重な文化財も失われている今、四年前の震災から復興しつつある能登の寺社を訪れて、地元石川県の豊かな文化を体感していただきます。ぜひご参加ください。

十九日	加賀百万石 美と歴史風土 (33分) いしかわの文化財―工芸品・工芸技術編 (21分)
五日	フェルメールの静寂のフェルメール (30分) 人間を見つめる眼写楽/ロートレック (30分)
十二日	「加賀藩主の生活―十一代治脩の日記―元金沢市史専門委員 長山直治氏」 「大梁公日記」に見る―
二十五日	「高橋介州と加賀象嵌」 南 俊英 担当課長
二十五日	「土曜講座」 十三時三〇分～ 美術館講義室 聴講無料
二十五日	「百万石文化講座」 十三時三〇分～ 美術館ホール 聴講無料
二十五日	「ビデオ上映会」 十三時三〇分～ 美術館ホール 入場無料

期 日/六月二十六日(日)

(午前八時二〇分に金沢駅出発の予定です。)

参加費/六,〇〇〇円(会員外/六,二〇〇円)  
募集定員/四十四名

### 【見学予定地】

◆高爪神社/加賀藩前田家と深い関わりのある志賀町の神社です。県指定文化財の書状などを特別公開します。

◆總持寺祖院/輪島市門前町にある、曹洞宗の古刹です。寺宝の「四季花鳥図」などを特別公開します。

◆明泉寺/飛鳥時代の白雉三年(六五二)に開かれた、奥能登で最も古い歴史を持つ真言宗の名刹です。

### 【申込み方法】

◇往復はがきに左記の事項を記入し、ご応募下さい。応募者多数の場合は抽選になります。

① 往復はがきの裏面に「美術館バスツアー希望」と明記し、住所、氏名、年齢、電話番号、会員番号(友の会会員のみ)をお書き下さい。

② 返信はがきの表面には返信先をはっきりとお書き下さい。

③ 返信はがきの裏面には何も書かないで下さい。

◇応募先  
〒九二〇〇九六三 金沢市出羽町二―一  
石川県立美術館バスツアー係

応募締切り/六月十三日(月) 必着  
※応募者一名につき、往復はがき一通でご応募下さい。一人でも何通も出されたものや、連名のもの、記載事項が不備なものなどは無効となります。

## 百万石文化講座

前田家と尊經閣文庫を、より知っていただくための企画。

「百万石文化講座」を今年も行います。秋十一月までに三回の講演会を予定しており、第一講は六月十二日(日)、金沢市史の専門委員を勤めておられた長山直治氏による「加賀藩主の生活―十一代治脩の日記「大梁公日記」に見る―」です。第二講以降についての詳しい内容は、改めてお知らせします。

## 参加者募集！(小学生親子対象)

### 夏休み制作体験講座

夏休みに美術を楽しんでいただく小学生親子対象のプログラムです。毎年たくさんご応募いただいています。親子で共に制作できる楽しいひとときを過ごしてみませんか？作品完成後は、広坂別館に展示します。参加費は、実費として千円程度を予定しています。

応募締切り 七月八日(金) 必着

■定員・時間/各回十五組三十名 午後一時三〇分より

◆一・二年対象「かくれんぼハウスをつくらう！」八月一日(月) 木切れで、自分の宝物などをかくせる建物をつくりまします。

(二年生・午前一〇時、二年生・午後一時三〇分より)

◆三・四年対象「かごをあもう」七月二十七日(水)

紙ひもでかごをあんでみよう。

◆五・六年対象「油絵に挑戦！」七月二十九日(金)

油絵の具を使って絵画に挑戦します。

申込み方法(往復はがき)

宛先/〒九二〇〇九六三 金沢市出羽町二―一

石川県立美術館 普及課宛

参加希望する講座名・保護、児童の氏名・学年・住所、電話番号、返信先にご自分のお名前、住所を記入し、ご応募下さい。

※定員を上回った場合は抽選となり、結果は返信はがきでお知らせいたします。



舞い降りる雁の姿を、呉須の力強く簡潔な線描でとらえ、その上に透明な紫の釉をかけて、生き生きとした躍動感を感じさせています。背景は、重ね菊の小紋で埋め尽くして鮮やかな緑の釉で覆い、緑豊かな大地、また見方によっては海原を連想させるような雰囲気をもたし出しています。その中に、控えめに配された芦が黄色で表され、まるで瞬間的に光る稲妻のような輝きを見せ、効果的なアクセントとなっています。このように、力強い筆致で対象の形を描き、その上にたつぷりとした透明な紫、緑、黄の色釉をかけて、器面全体を塗りつぶす表現は、伝統的ないわゆる古九谷青手の手法を学び継承したものと見え、本作はそれを現代的感性で活かして制作した、作者の代表作といえるものです。

作者は、能美市(旧寺井町)に生まれました。旧姓は岩田、本名を吉二といい、小松の初代・松本佐吉の養子となり、松雲堂四代を継ぎました。近代陶芸の巨匠・板谷波山に師事し、戦前は帝展、戦後は日展、昭和三十年からは日本伝統工芸展を中心に活躍しています。作風は、戦前においては上絵に陶彫や象嵌などを施した作品、戦後四十年代からは磁器による釉裏金彩の技法、五十年代からは古九谷や吉田屋の伝統の真髄にせまった作品を生み出しました。

次回の展覧会

7月16日(土)～9月6日(火)  
コレクション展示室

前田育徳会尊経閣文庫分館	第2展示室
書跡と文房具	古九谷・再興九谷名品展
第4展示室	第6展示室
西山英雄と一門展	夏休み親子で楽しむ美術館 「さがしてみよう」
企画展示室 7月16日(土)～8月21日(日)	
ホノルル美術館所蔵 北斎展	

ご利用案内

コレクション展観覧料  
一般 350円(280円)  
大学生 280円(220円)  
高校生以下 無料  
※( )内は団体料金

6月の開館時間  
午前9:30～午後6:00  
(4日・11日は午後7:00まで開館)

カフェ営業時間  
午前10:00～午後7:00

6月の休館日は  
13日(月)～15日(水)

訂正  
前号のミュージアムショップ通信において掲載した「茶道美術名品図録」の定価を二、〇〇〇円と記載しましたが、正しくは二、五〇〇円の誤りでしたので、訂正しお詫び申し上げます。

やさしさ品質

お土産・和洋菓子・生鮮・惣菜・レストラン

地階 **エムザ** 食品館

“もっとお客様へ、もっと地域に”

MEITETSU  
**MIZA**

めいてつ・エムザ

金沢・むさしがは TEL代表(076)260-1111  
http://www.meitetsumza.com/

石川県立美術館だより  
第332号(毎月発行)  
2011年6月1日発行  
〒920-0963  
金沢市出羽町2番1号  
Tel:076(231)7580  
Fax:076(224)9550  
URL http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/